

新中期経営計画

2022年3月期～2024年3月期

ご説明資料

 ユシロ化学工業株式会社

TYO 5013

2021年5月24日



YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

INDEX

前中期経営計画の振り返りと当社の強み 3

前中期経営計画の振り返り	4
前中期経営計画の成果と課題	5
ユシロの由来と強み	6
積み重ねてきた技術力	7
徹底した顧客ファーストの姿勢	8
グローバル展開	9

新中期経営計画 10

事業環境認識	11
新中期経営計画の位置づけ	12
基本方針と基本戦略	13
経営目標	14
財務・投資戦略	15
財務・投資戦略	16
配当方針	17

事業戦略 18

自動車向け顧客基盤の強化	19
顧客層と製品領域の拡大	20
協業による顧客層の拡大	21

自己修復性素材の事業化	22
BtoBtoC市場への参入/洗濯槽クリーナー	23
BtoBtoC市場への参入/洗濯槽クリーナー	24
BtoBtoC市場への参入/光触媒	25
航空機部品・医療部品市場への参入拡大	26
ICTによる業務改革	27
ESG経営の推進	28

《参考資料》 Appendix 30

会社概要	31
ユシログループ 国内外ネットワーク	32
財務データ推移	33

A dynamic splash of clear water against a blue gradient background, with numerous droplets and ripples. The splash is centered in the upper half of the page.

前中期経営計画の振り返りと当社の強み

前中期経営計画の振り返り

- 売上高は国内・海外ともに大きく伸長
- 収益面はコスト競争力強化に努めたものの、原材料費の高騰や人件費上昇による海外での収益悪化が響く

前中期経営計画
2018/3期～2020.3期

(百万円)

	17/3期 実績	20/3期 実績	増減		21/3期 実績
売上高	29,605	37,274	+25.9%		31,661
営業利益	2,437	2,213	△9.2%	新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し 中計公表を延期	1,095
経常利益	3,017	2,718	△9.9%		1,517
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,697	1,913	12.7%		978

前中期経営計画の成果と課題

前中期経営計画の基本方針	前中期経営計画の成果	継続課題
① グローバルでの販売力強化	<ul style="list-style-type: none">● 米クオリケム社の買収により海外での新たな販路、新たな製品分野を獲得	<ul style="list-style-type: none">● 米クオリケム社との連携強化
② コア事業での競争力強化	<ul style="list-style-type: none">● ワイヤー加工油剤、飲料缶成型用油剤を開発	<ul style="list-style-type: none">● 自動車産業への販売先依存から脱却
③ グループ間シナジーを最大限に発揮できる体制構築	<ul style="list-style-type: none">● グループ会社間での情報活用に向けてICT環境の整備を開始	<ul style="list-style-type: none">● ICT環境の全社的な整備を通じた生産性向上と業務効率化

経営理念
共々の道

“油”で
「ものづくり」と人々の暮らしを
支え続ける

ユシロ化学工業



ゆしろ
油脂蠟

昭和19年、創業者森本貫一が
油脂蠟（ゆしろ）の精製加工を目的として
会社を設立したことによる

創業来70年にわたる金属加工油剤のリーディングカンパニー

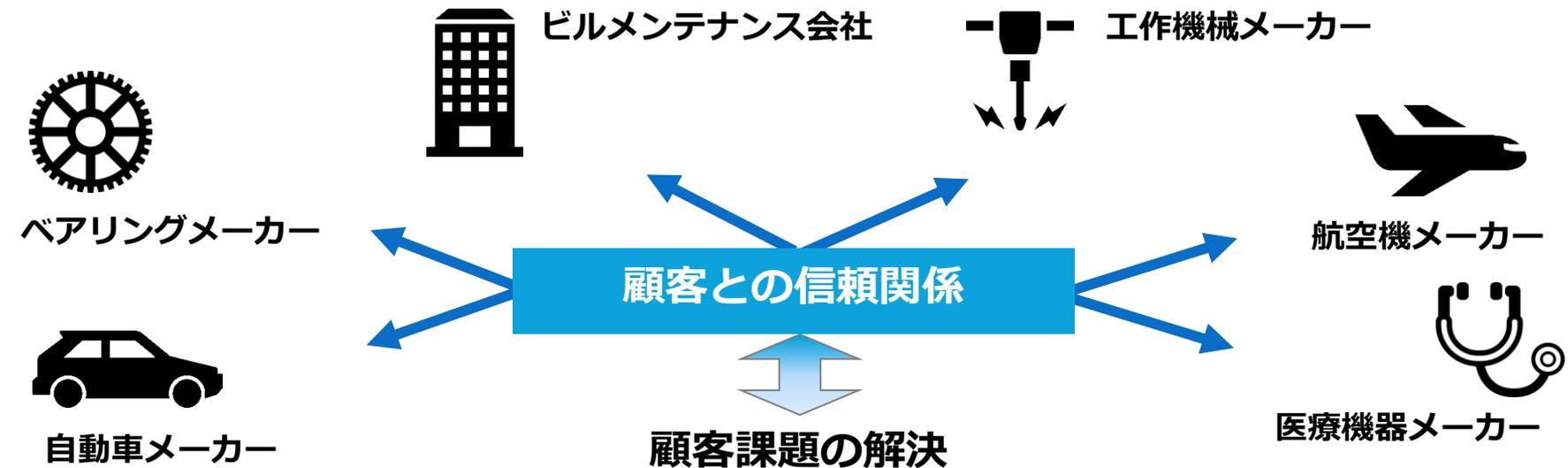
3つの強み

積み重ねてきた
技術力

徹底した顧客
ファーストの姿勢

グローバル展開

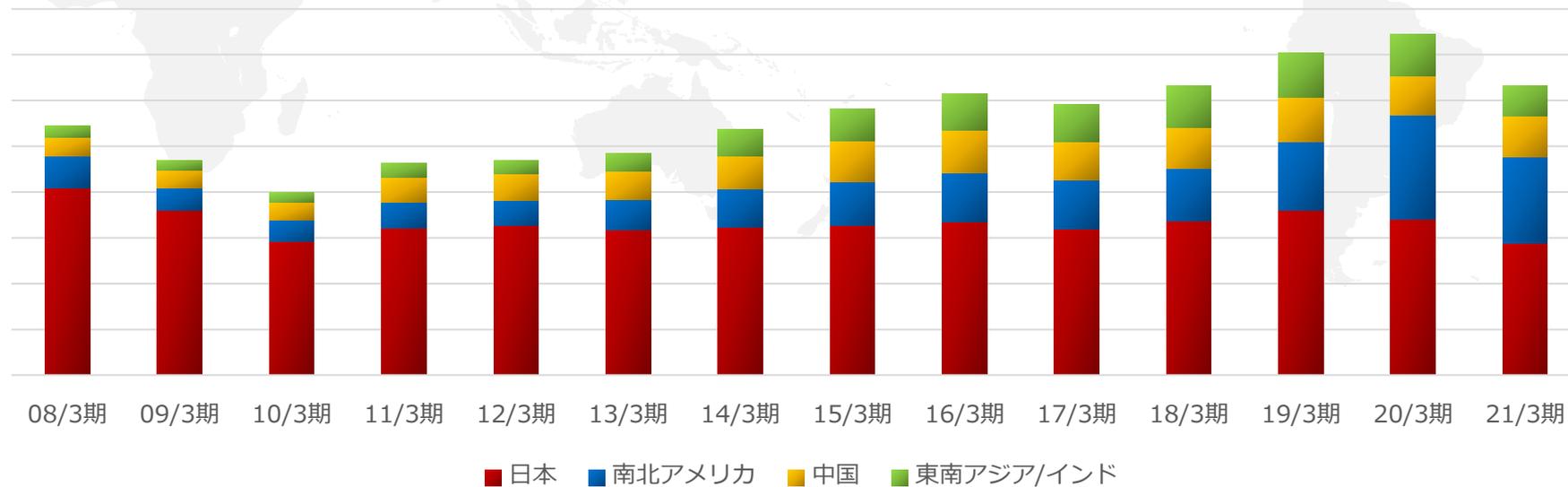
積み重ねてきた技術力



徹底した顧客ファーストの姿勢



グローバル展開の推移



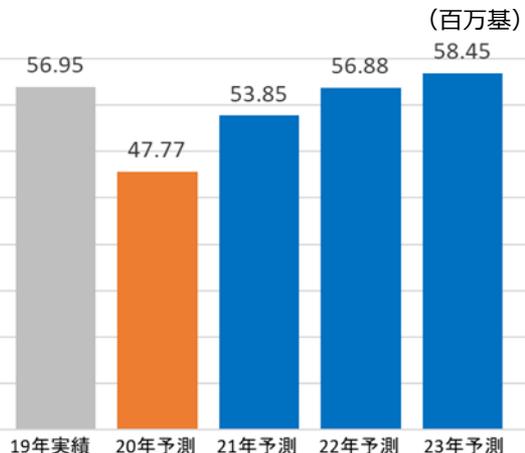
A dynamic splash of clear water against a light green background, with numerous droplets and ripples. The splash is centered in the upper right portion of the page.

新中期経営計画

2022年3月期～2024年3月期

【自動車業界】

《当社拠点のある世界のエンジン生産台数予測》



※当社調べ ※昨年9月時点の情報に基づくデータ

- 自動車生産は2021年緩やかに回復を続け、2022年中には2019年並みの実績に戻ると想定。
- 電気自動車の伸びは世界的に増加が予測されるが、本中計期間中では自動車生産全体に占める割合は少なく、業績への影響は軽微と予測。

【米国航空機、医療機器市場】

航空機市場はコロナ影響を短期的に受けるが旅客機減少を貨物機増加で回復は早いと推測。医療機器も高齢化による市場拡大が予測される。



コスト上昇のリスク

新型コロナウイルス感染が収束しない場合、原油価格の変動、物流不安定化による原料価格上昇などの懸念がある。

■グループの業績は自動車市場の回復及び米国クオリケム社の伸びもあり、**2022年中には2019年実績に戻る見込み。**

■今後のコスト上昇のリスクに対応する為、収益性（コスト削減、製品価格改定など）の改善を行う。

新中期経営計画の位置づけ

新中期経営計画では業績・収益性を改善し、次の成長に向けた基盤を作る

2021/3
新型コロナウイルス感染の拡大

2025/3以降
持続的な成長に向けての新たな
戦略を策定する予定

RECOVER⁺ PLUS

中期経営計画
2022.3-2024.3

前中期経営計画
2018/3-2020/3

基本方針と基本戦略



市場環境や外部環境に影響されにくい経営体質

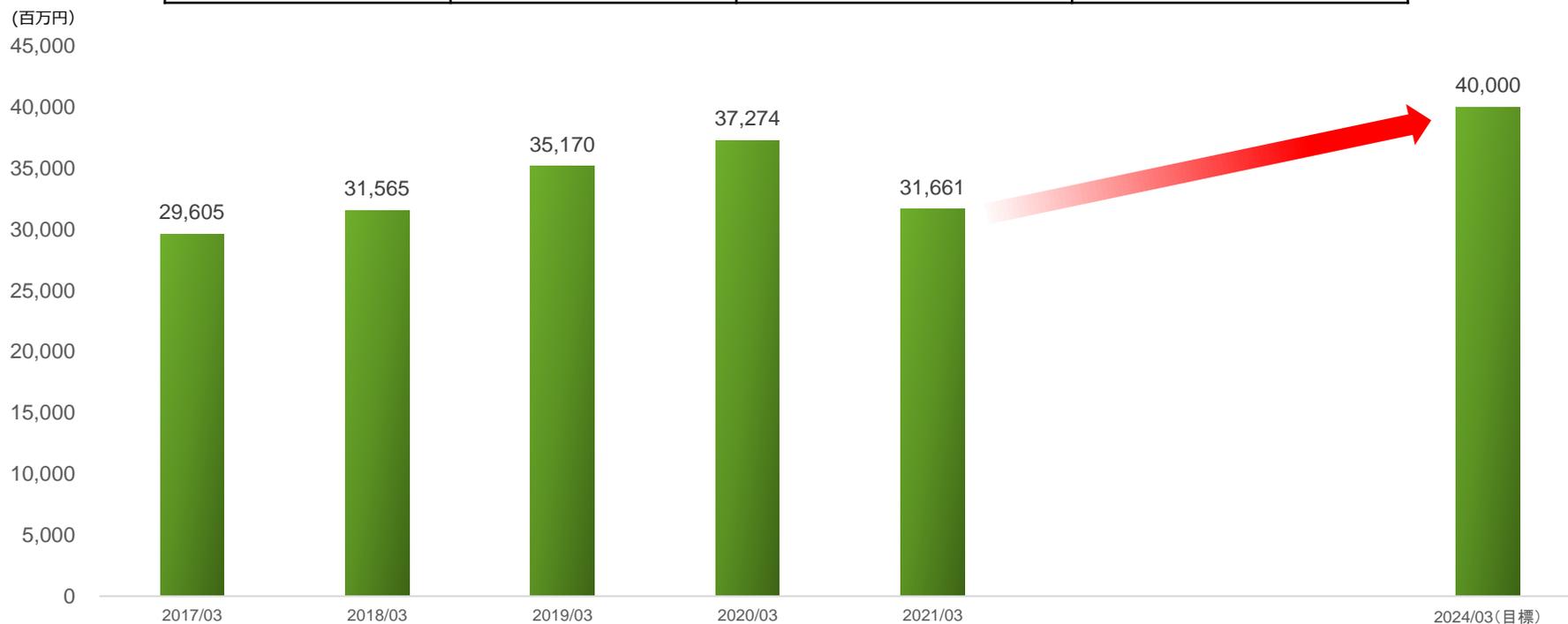
- 金属加工油剤分野における自動車産業依存からの脱却
- ビジネスモデルの再構築

- 環境目標の策定
- 産学連携のさらなる推進
- 資本効率を意識した経営

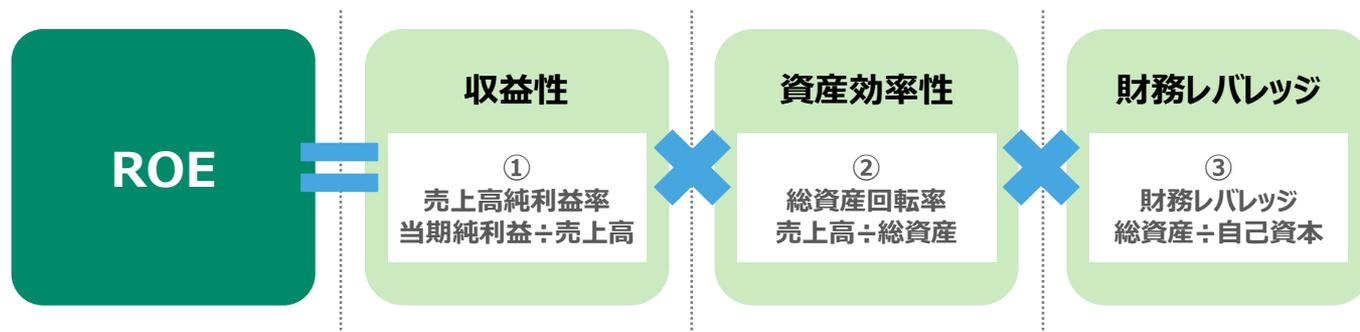
- 航空機部品・医療部品市場への参入拡大
- ICT技術の活用による業務の合理化・効率化

経営目標

	2020年3月期	2021年3月期	2024年3月期
売上高	372億円	316億円	400億円
営業利益	22億円	10億円	31億円
経常利益	27億円	15億円	35億円
当期純利益	19億円	9億円	23億円
ROE	6.4%	3.3%	8.0%



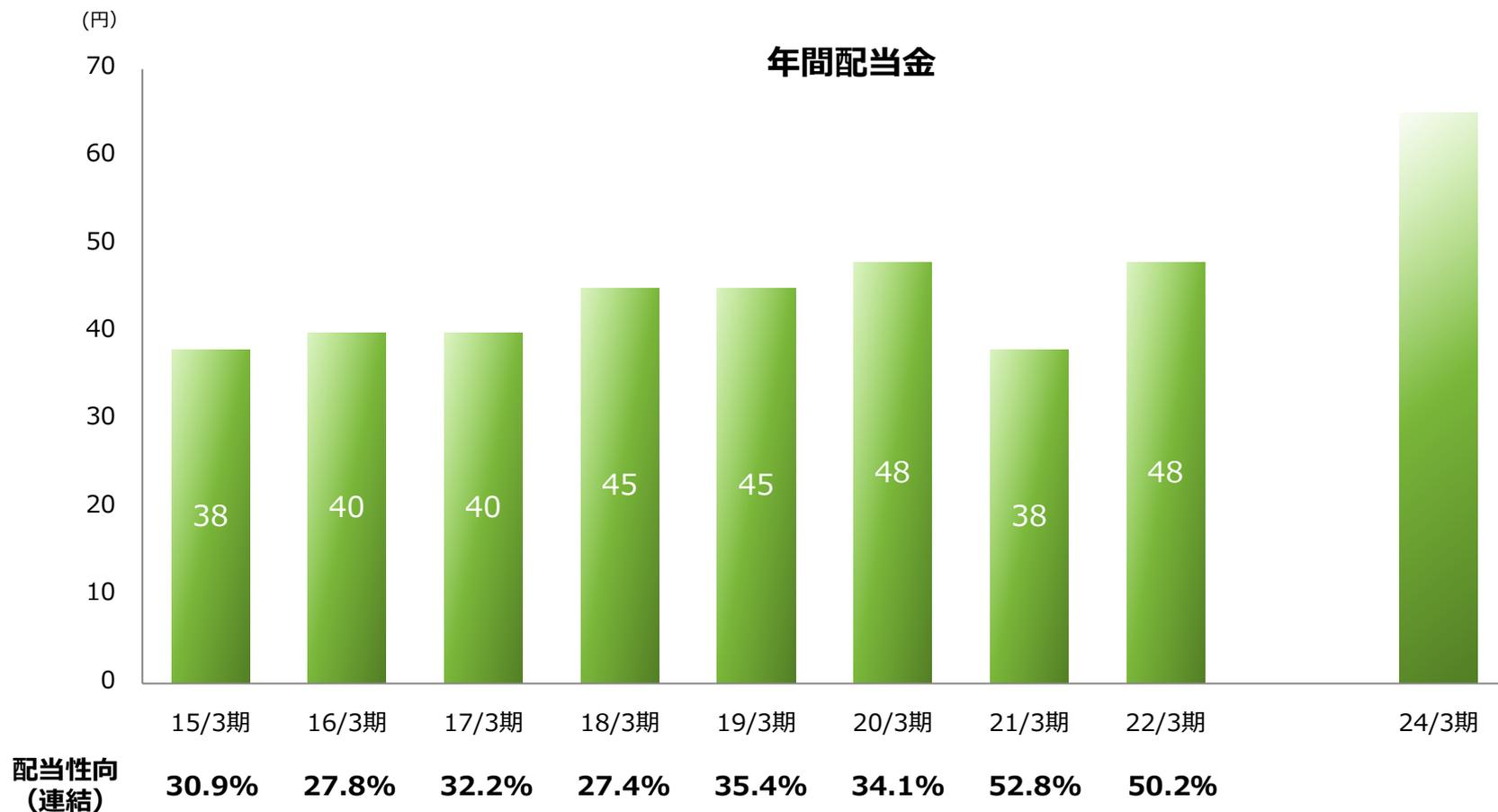
24/3期ROE8%以上を目指す



24/3期	8.0%	➔	➔	➔
21/3期	3.3%	3.1%	0.7回	1.6倍
20/3期	6.4%	5.1%	0.8回	1.6倍

配当方針

企業価値向上と持続的な成長に繋がる投資を優先的に実行することが結果としてステークホルダー共通の利益に資する考えに加え、株主に対する利益還元についても経営の重要施策とし、安定的・持続的に配当を行うことを方針とし配当性向を30%以上とする



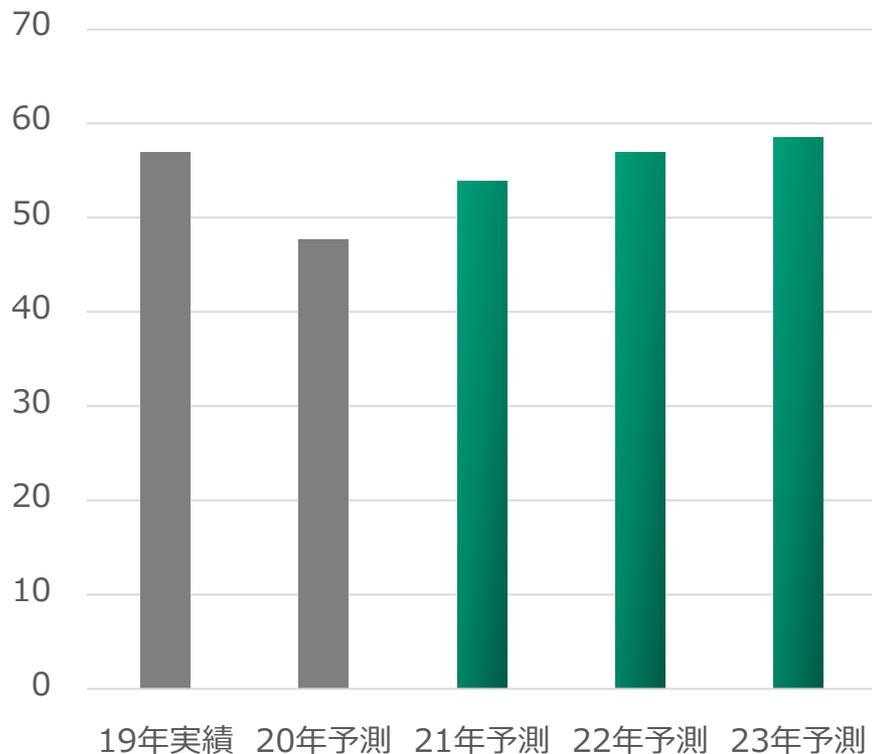
事業戦略



自動車向け顧客基盤の強化

新型コロナウイルスの流行により、
自動車の生産台数は一時落ち込むが、
21年から回復を予想

当社拠点のある世界のエンジン生産台数（百万基）

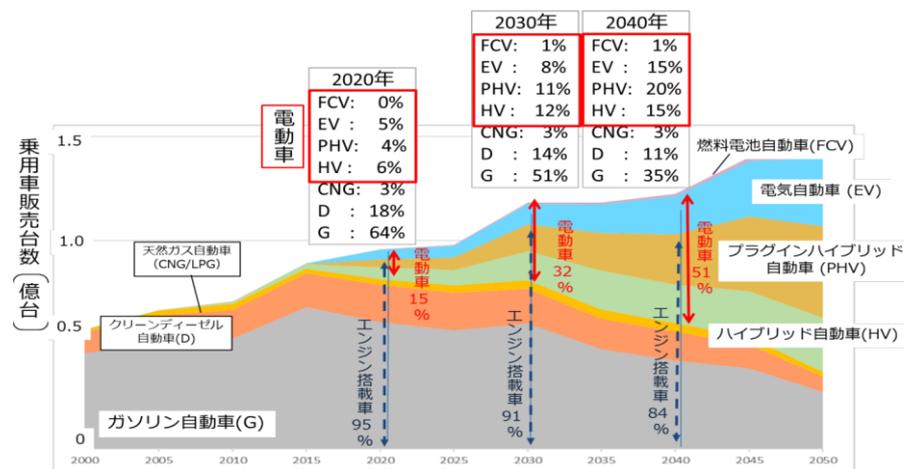


※当社調べ。昨年9月時点の情報に基づくデータ

EV市場が伸長するも、
エンジン搭載車の需要は依然として
底堅く推移していくことが予想される

IEAが示した技術普及シナリオ

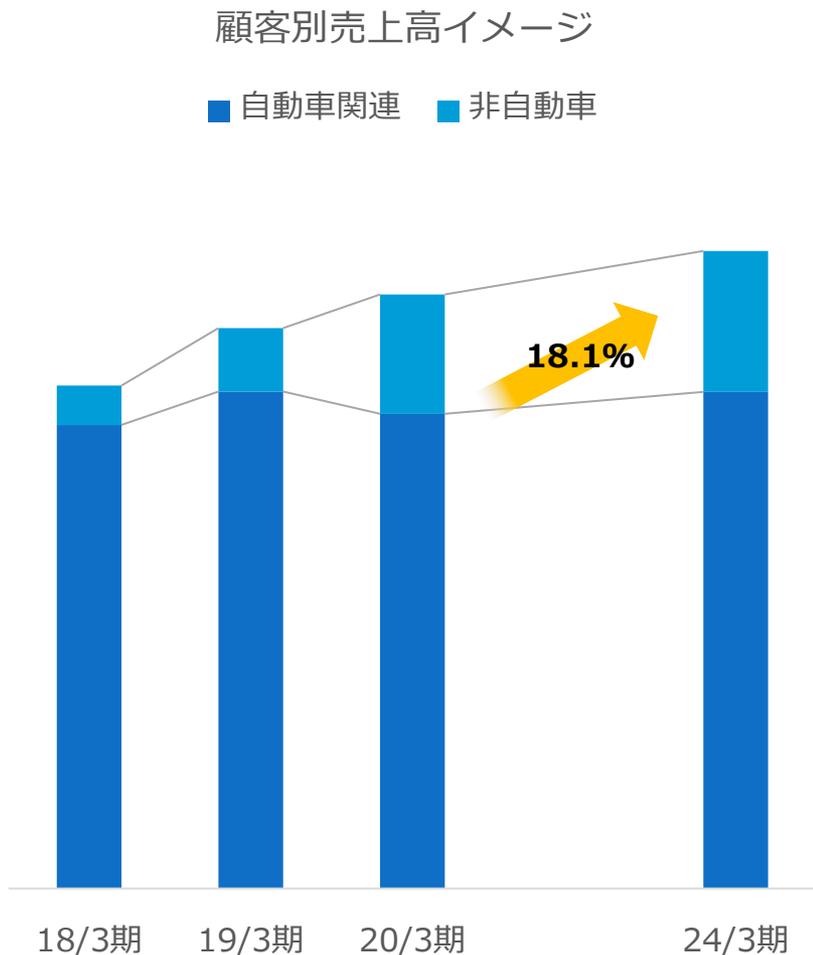
(平均気温上昇の▲2℃達成のケース)



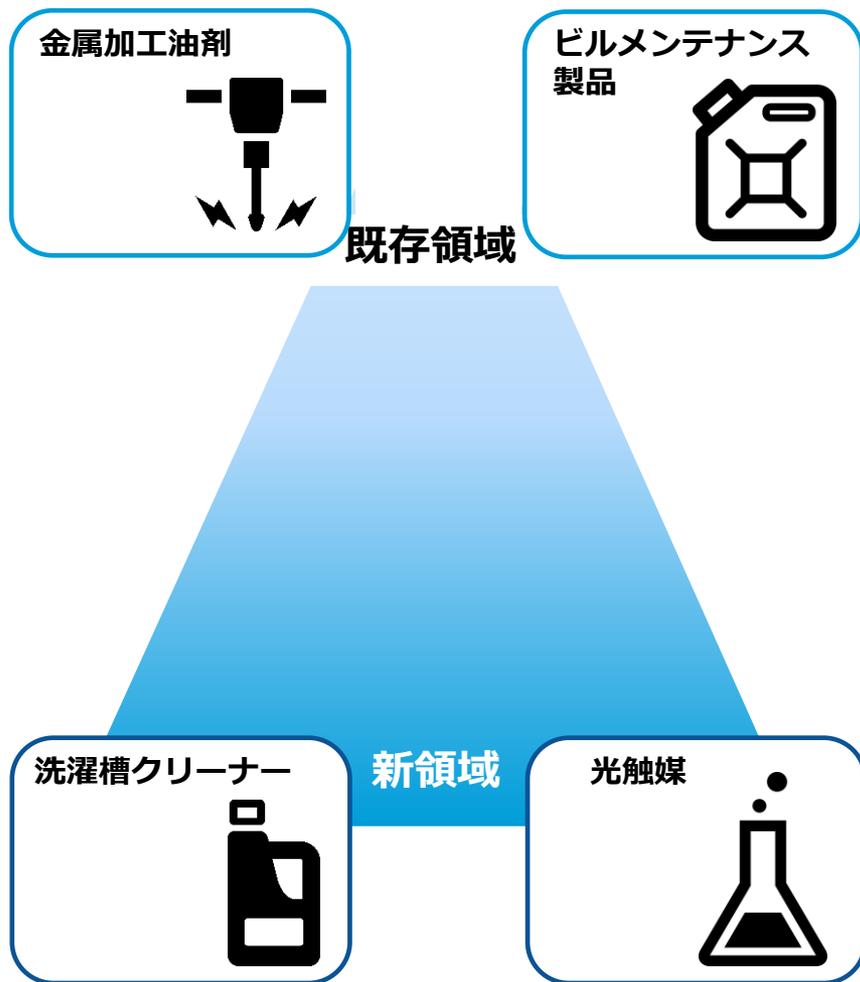
出典：IEA「Energy Technology Perspectives) 2017に基づき経済産業省作成（「自動車新時代戦略会議」第1回資料）
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/jidosha_shinjidai/pdf/001_01_00.pdf

顧客層と製品領域の拡大

非自動車へのアプローチを強化し
自動車産業への偏重を是正



技術力を活かした新たな製品開発により
新領域を開拓



協業による顧客層の拡大

アメリカ・ユシロとクオリケム社との協業により、
北南米地域でのシェア獲得、効率的な経営を目指す

アメリカ・ユシロ 既存法人



クオリケム社
18年に買収



シナジー効果の実現

クオリケム社の米系企業への人脈、販売ルート（代理店）の活用
原材料の共同購入、物流の効率化によるコスト削減
ケミカルマネジメントの活用による新規顧客の獲得
両社の独自技術の融合で競争力アップ

自己修復性素材の事業化

販売先を確保し、事業化を目指す

事業化に向けた活動内容

開発 ※特許取得済み

- ① ウィザードゲルの非劇物化 (ウィザードゲルHD[※])
- ② ウィザードゲルの水分非含有化 (ウィザードエラストマー[※])
- ③ 高純度モノマーの開発 (ウィザードモノマー)
- ④ ポリマー用添加剤の開発 (開発中)



適用

- ・医療
- ・玩具
- ・化粧品 等
- ・電子部品
- ・塗料、接着剤
- ・3D造形品 等
- ・細胞培地用ゲル
- ・特殊原料 等
- ・既存プラスチック
- ・ゴム 等

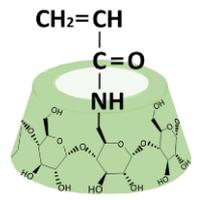
事業化

ビジネスモデル

製品販売



受託合成



設備投資

前中期計画

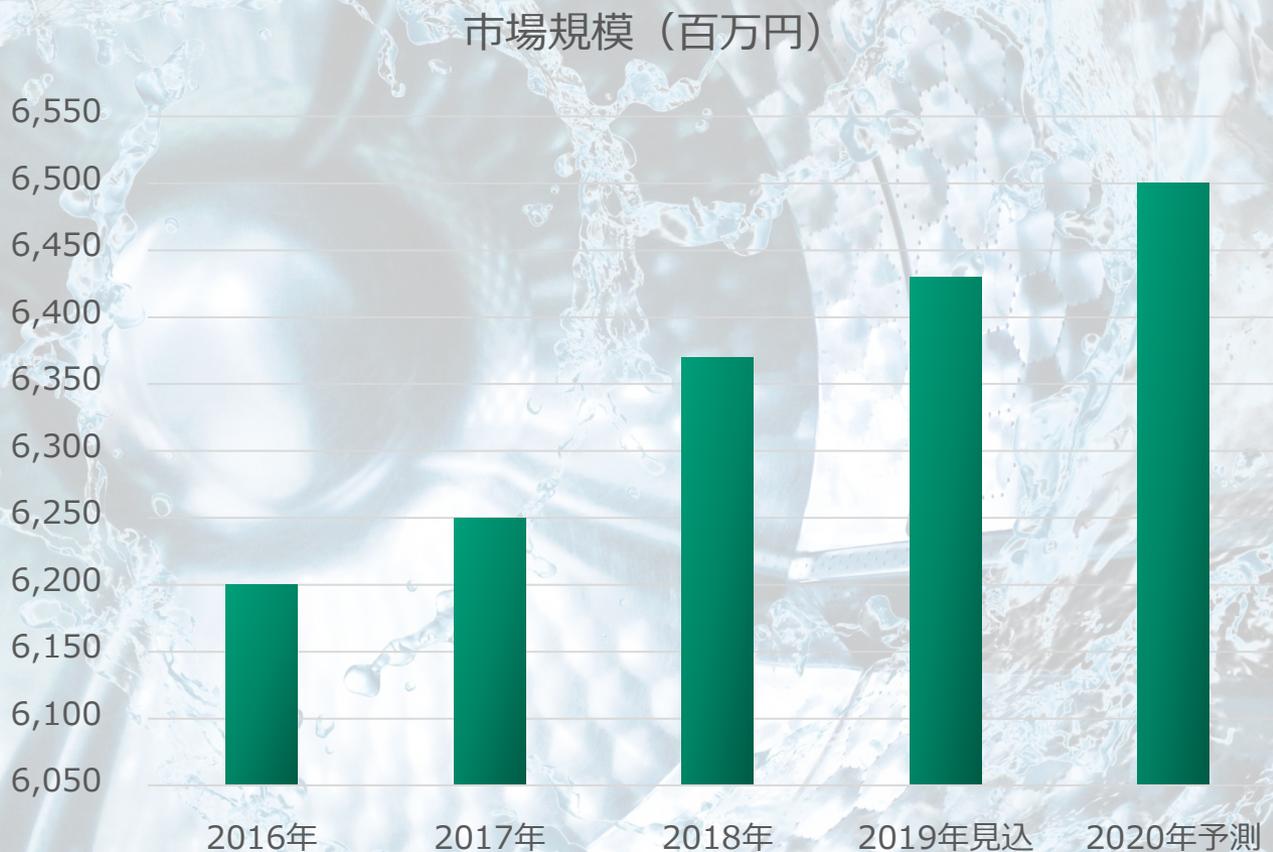
開発に必要な分析機器の購入約75百万円
(共同研究費用含む)

当中期計画

- ・セミプラン建設 約1.2億円
- ・プラント建設 約15億円

BtoBtoC市場への参入／洗濯槽クリーナー

衛生意識の高まりや生活スタイルの変化で使用頻度が増加。
マーケットは年々拡大傾向



※出典：富士経済 トイレタリーグッズマーケティング要覧

BtoBtoC市場への参入／洗濯槽クリーナー

大手家電メーカーのOEMで開発・生産し販売好調



当社の売上推移実績・予測



※2016年度の販売実績を100とした場合の指数

BtoBtoC市場への参入／光触媒

多くの分野に応用し、売上を伸ばしていく想定



当社の光触媒

- 除菌・抗ウイルス可能
- 室内蛍光灯で除菌・消臭効果を発現
- ビタミンなどの食べられる物質で構成
- 水溶性で適用範囲が広い

▶ 今後、様々な製品に適用予定

既存顧客向けに
消臭・除菌剤を販売



除菌・消臭スプレーを
商品化

ホテル、飲食店向け除菌剤

家電製品

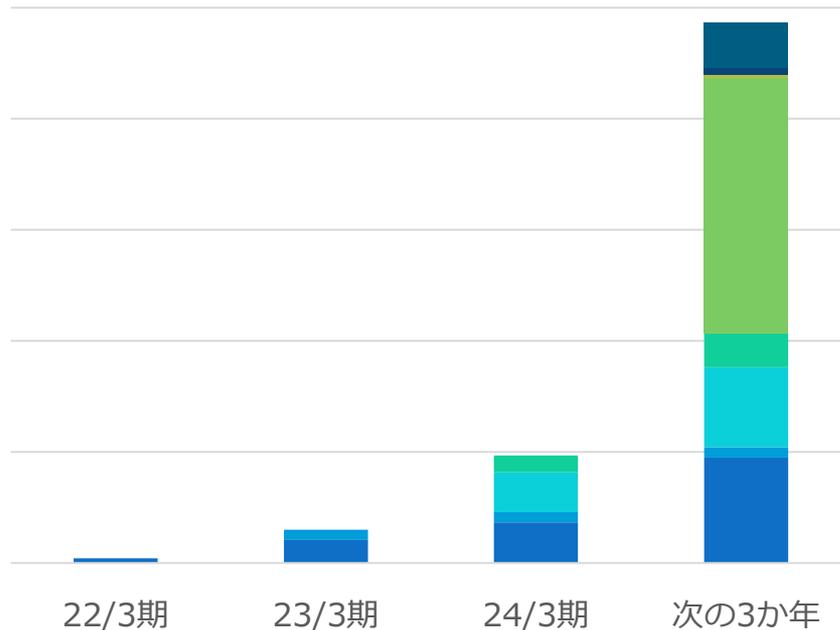


畜産、農業、水産の衛生工場

22年3期2Q

今後の販売計画

- 消臭剤
- 掃除機
- 農業用途
- 水産養殖
- 掃除用ワイパ
- 加湿空気清浄機
- 植物工場
- 動物用除菌剤



航空機部品・医療部品市場への参入拡大



航空機分野

ボーイング社での全ての加工分野の認証を取得
Ex) 塗装鋼板、高張力鋼板、アルミ合金、チタン部品



医療関係分野

安全性の高い合成油ベース製品の認証取得

クオリケム社の売上高予測(千USD)



ICT技術を活用することで業務の合理化・効率化を行う

社員の生産性向上

ICT環境を構築し、社員の意識改革、生産性向上を図る（モバイル機器の活用、テレワーク、シェアオフィスが活用できる環境のICT化による業務改革整備など）

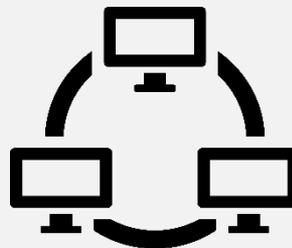
- モバイル機器の活用で営業スタイルの変革（会社でしかできない業務及び移動時間の削減）
- テレワーク・シェアオフィスが活用できる環境の整備



経営の効率化

ICT化による経営の効率化（情報のデジタル化、販売力・生産力の強化など）

- アナログデータのデジタル化推進
- 情報のリアルタイム化推進
- ICT化による販売力、生産力の強化



海外拠点との情報共有

海外拠点とリアルタイムでの情報共有化を実現し経営判断のスピードを加速させる。

- 海外拠点と日本との相互間での情報の見える化実現



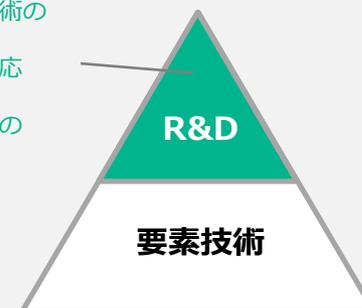
Environment

- ・ 環境基本方針実現を目指した具体的な目標策定を実施
環境基本方針…「私たちは、人と地球にやさしい技術を通して、持続的発展可能な環境調和型社会の実現を目指し、次世代に住みよい地球と豊かな社会を引継ぐように努めます」という当社の環境に対する理念

Social

- ・ 産学連携で社会課題解決に向けた製品を開発することで貢献

- ・ 環境と共存する新技術の開発
- ・ ワールドワイドに対応できる製品開発
- ・ バイオテクノロジーの応用開発
- ・ IT産業分野への参画



Governance

- ・ ROE目標8%に設定し、資本効率を意識した経営を推進
- ・ 投資家との対話強化を実施
- ・ サステナビリティ委員会の設置を検討



当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシロの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシロの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ①ユシログループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ②世界の原油価格動向
- ③米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシロをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。

参考資料

会社概要

会社概要（2021年3月末現在）

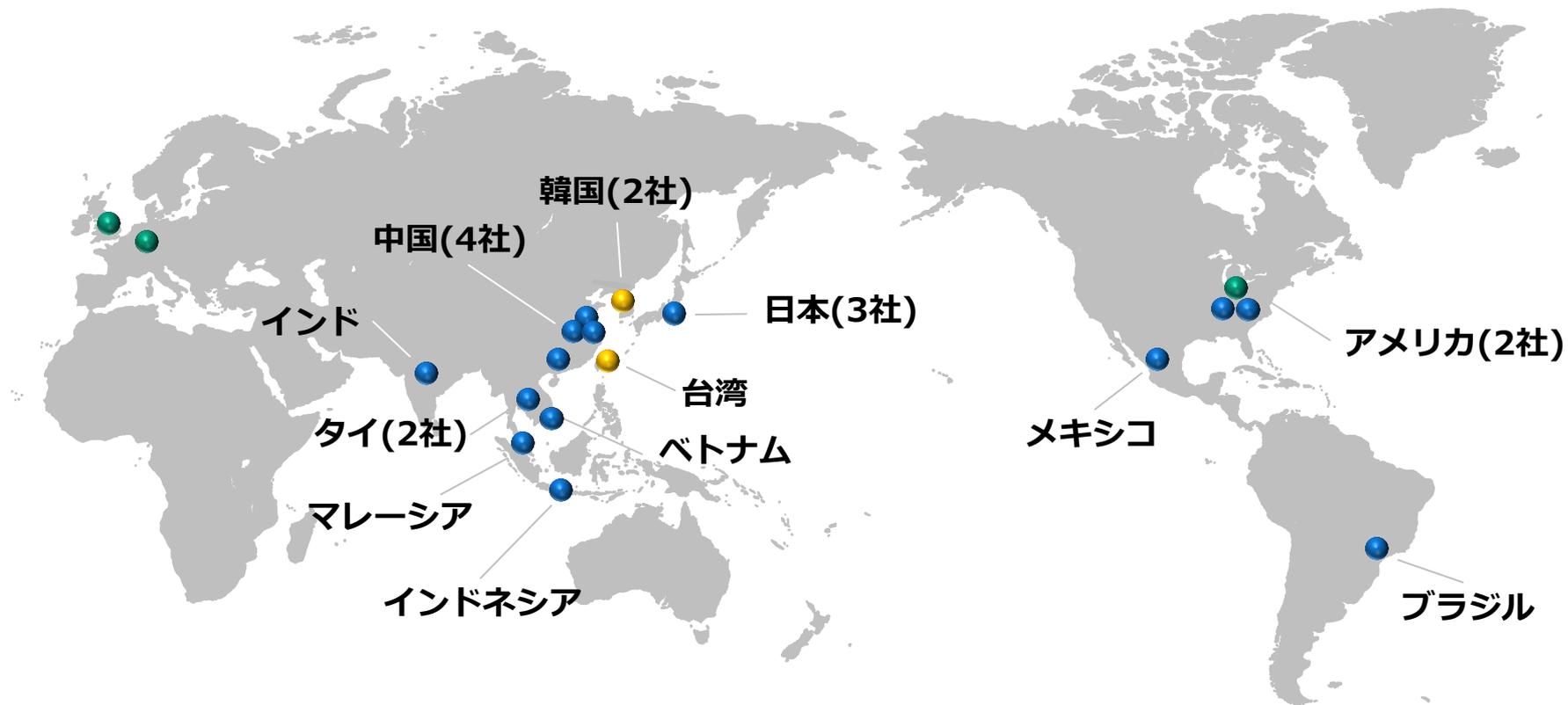
社名	ユシロ化学工業株式会社 (英文名称：Yushiro Chemical Industry Co.,Ltd.)
本社	東京都大田区千鳥2丁目34番16号
代表者	代表取締役社長 大胡 栄一
創立	昭和19年7月24日
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・金属加工油剤(切削油剤、圧延油剤、引抜油剤、プレス油剤、ダイカスト離型剤、さび止め油剤、洗浄剤等)の製造・販売 ・ビルメンテナンス製品(フロアメンテナンス用ワックスおよび剥離剤、洗浄剤、メンテナンス用機器)の製造・販売
資本金	4,249百万円
連結子会社	(国内) ・日本シー・ピー・ケミカル株式会社(化学品製造・販売) ・ユシロ運送株式会社(製品輸送) ・ユシロ・ゼネラルサービス株式会社(ユシロ運送の倉庫管理業務)(海外) 北米、南米、アジア地域に合計14社のネットワークを有しています。
従業員数	単体：306名 連結：994名

海外拠点詳細

地域	国	社名	住所
北米	アメリカ	YUSHIRO MANUFACTURING AMERICA,INC.	米国インディアナ州 シェルビービル市
		QualiChem,Inc.	米国バージニア州セイラム市
	メキシコ	YUSHIRO MEXICO S.A.DE C.V.	メキシコ国 グアナファト州
南米	ブラジル	YUSHIRO DO BRASIL INDUSTRIA QUIMICA LTDA.	ブラジル国 サンパウロ州カサババ市
アジア	中国	上海尤希路化学工業有限公司	中国上海市宝山区
		啓東尤希路化学工業有限公司	中国江蘇省啓東市
	タイ	YUSHIRO(THAILAND)CO.,LTD.	タイ国チョンブリ県
	マレーシア	YUSHIRO MALAYSIA SDN.BHD.	マレーシア国 セランゴール州プチョン
	インドネシア	PT.YUSHIRO INDONESIA	インドネシア国 西ジャワ州カラワン県
	ベトナム	YUSHIRO VIETNAM CO.,LTD.	ベトナム国ホーチミン市 *非連結子会社
	インド	YUSHIRO INDIA COMPANY PRIVATE LIMITED	インド国 ハリヤナ州グルグラム
	台湾	三宜油化股份有限公司	台湾台北市
	韓国	汎字化学工業株式会社	韓国ソウル特別市

ユシログループ 国内外ネットワーク

- 子(孫)会社 (国内3社、海外14社)
- 持分法適用会社 (海外3社)
- 技術提携会社 (海外3社)



財務データ推移

(百万円)

	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期
売上高	23,135	23,482	24,217	26,833	29,061	30,680	29,605	31,565	35,170	37,274	31,661
営業利益	2,078	878	881	1,409	1,569	2,169	2,437	2,502	2,076	2,213	1,095
経常利益	2,464	1,298	1,615	2,285	2,521	2,947	3,017	3,243	2,634	2,718	1,517
当期純利益	1,435	693	1,052	1,495	1,703	1,993	1,697	2,228	1,724	1,913	978